

平成30年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 宮古島市社会福祉協議会	代表者	饒平名健次	法人・ 事業所 の特徴	社会福祉協議会が運営する事業所で、住宅地から離れており自然豊かな環境でのんびり過ごせる事業所です。利用者の平均介護度は1.6と中軽度の方が多く、半数以上を認知症の方が占めており、認知症ケアを主に、「本人らしさと笑顔を大切に感謝の気持ちを持ってケアします。住みなれた地域とのつながりを大切にし安心できる環境作りに努めます」を理念に掲げて、地域に根差した事業所を目指している。
事業所名	宮古島市社協小規模多機能型居宅介護事業所たかやま	管理者	普天間直之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1	1	1人	1人	1	1	人	7

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	○今後も継続してスタッフ全員で自己評価に取り組んでいき、振り返りの場として活用し、かつ意識の向上につなげていく	○自己評価に全員で取り組んでいる。 ○自己評価に取り組むことでスタッフの良い理解の場になり、自分自身を振り返る事により、意識向上につながったと感じられる。	○スタッフの顔と名前がわからない。 ○スタッフの取組みに関して実際みないとわからない	○スタッフの顔と名前がわかる一覧表の作成 ○事業所の取組みなどを活動報告やたよりを使ってわかりやすいようにする
B. 事業所のしつらえ・環境	○事業所前の道路に街灯が無く、夜は真っ暗になる。競技場を使用するために利用する住民もいる為、早めに宮古島市に申請を行い、街灯を設置してもらい夜でも安心して地域住民が行き来できるようにする。 ○事業所内が暗く感じられるため、照明の設置を検討していく。	○街灯の設置は行ったが、1つのみの為、暗い状態が解消されていない。 ○事業所内の照明は解消されていない。引き続き検討が必要と思われる。	○周辺が森だから草刈りとか大変でしょう。 ○網戸が無いと蚊が入ってきて大変でしょう ○お泊りの時は鍵をかけた方が良いと思う	○事業所周辺の街頭を追加してもらうよう宮古島市に申請を行い、夜間安心して地域住民が行き来できるようにする。 ○事業所内の網戸や照明などを検討していく
C. 事業所と地域のかかわり	○夏祭りの効果は実際に感じられている。毎年継続して地域交流の場として貢献し、地域の活性化に取り組んで行く。 ○民生委員や老人クラブ、自治会の会合に積極的に参加し、交流を深める。 ○清掃活動やイベントなど事業所で主催して自治会などにも呼びかけて、地域を絡め活動を一つでも行っていく。	○夏祭りは継続して開催できたが、1時間時間をずらしたため、暗くなり過ぎて照明不足で指摘や広告のやり方など新たな改善点見つけた。 ○豊原部落の会合に参加出来た。 ○清掃活動やイベントに、事業所主体では行えていない。	○夏祭りは子供中心であと利用者家族以外の地域の方は来てなかったと思う。 ○すぐ隣に地域福祉の担当があるのでまず上野支所に相談がいく。 ○夏まつりの広告は張り紙だけでなく、市の広報誌に載せたりしたらいいと思う。 ○夏祭りは目玉を作った方が良いと思う。	○たかやま夏祭りは継続して行うが、広告や夜の照明など改善を行う。 ○各地域などの会合やイベントに積極的に参加して地域交流を行う。 ○地域福祉課との連携を図れるようにする。

<p>D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み</p>	<p>○地域福祉懇談会に積極的に参加していく。 ○地域のイベントに参加したり、地域の方と共同した作業などを提案していく。</p>	<p>○地域福祉懇談会の参加・主催が出来ている。地域福祉懇談会を行うことで地域の住民の方と協力して利用者を支えている。 ○地域のイベントには参加しているが、スタッフの顔や名前がわからない為、参加したかわからないとの意見も頂いた。 ○地域の方との共同した作業は行えていない。</p>	<p>○地域の心配な方は老人クラブの見守りたいがある。下地はヤクルト配達で月2回訪問している ○今回の上野地区の敬老会はたかやまから1人しか参加が無かった。</p>	<p>○自治会や民生委員の集まりに参加し情報収集し、イベントや行事に積極的に参加する。 ○地域福祉懇談会などを開催や参加して、地域の方との情報の共有を行う。 ○社会福祉協議会内の横の連携を取れるようにする。</p>
<p>E. 運営推進会議を活かした取組み</p>	<p>○地域の課題や地域で困っている方の事例など課題にあげて意見交換を行い、地域における支援の在り方を話し合っていく。 ○地域における共同活動の取り組みを提案し、話し合いを重ねて具体的な方法を検討していく。</p>	<p>○地域の困っている方の事例など課題にあげて意見交換があまり出来ていない。 ○地域における共同活動の取り組みが出来ていない。 ○たかやま内の報告だけにとどまっている。</p>	<p>○地域の心配な方がたかやまを利用して落ち着いた。</p>	<p>○事故報告だけでなく、事例検討の報告も行い意見を頂く。 ○利用者だけでなく地域の心配な方も会議の議題にあげて話し合う。</p>
<p>F. 事業所の防災・災害対策</p>	<p>○福祉避難所としての必要物品の備蓄を行うとともに、台風時の避難等に備えて、市担当課との連携を図っていく。 ○定期的な消防訓練や防火訓練に加えて、防災週間等の活動を展開して啓蒙を図り、スタッフや住民の意識向上を図っていく。</p>	<p>○福祉避難所としての必要物品の備蓄はされている。 ○定期的な防災訓練は出来ているが、防災週間等の活動は行っていない。 ○住宅地から離れている為、地域住民をまじえた避難訓練などは行っていない。</p>	<p>○福祉避難所と普通の避難所には違いがあって、福祉避難所を利用する場合は、市の登録と介護度3以上と介護の必要な方の避難場所です。 ○たかやまは海拔50メートルの高台なので津波の心配は少ないですが、下地地区は津波の心配がある。</p>	<p>○災害時の備蓄品の再確認 ○災害時の避難者受け入れを市の担当と連携を強化する。</p>